

革新の風 FAX ニュース 821号

2022年 2月7日

全国革新懇事務室

TEL03-6447-4334 FAX03-3470-1185

Eメール zenkoku@kakushinkon.org

<全国革新懇シンポジウム>

草の根からの対話と運動こそ

参院選勝利へ 「市民と野党の共闘」発展の課題を探求



全国革新懇は2月5日、東京で『市民と野党の共闘』の前進をめざして」をテーマにシンポジウムを開きました (YouTube で配信)。当日、オンラインでは600以上の会場・個人で視聴されました。

小田川義和全国革新懇代表世話人が開会あいさつ。「本格的な共闘でたまたかった総選挙の経験と結果をふまえ、選挙後の激動の情勢、いっそうひどい自公政権、そうしたなかで新しい政治の実現をめざす共闘をどうつくるか、革新懇運動の役割を探求したい」とシンポの目的を語りました。

○主権者の意思が政治動かす最大の原動力

石川康宏さん (コーディネーター、神戸女学院大学教授) が問題提起。総選挙では野党共闘に効果があったものの、急速な揺り戻しがあったとし、支配層は①メディアの一層の取り込み②「補完勢力」の活用・育成③共産党への猜疑心をあおる攻撃——の効果に味をしめたと述べ、市民側の学習と運動が不可欠だと強調しました。岸田政権が改憲に突き進むなか、「主権者の意思こそが政治を動かす最大の原動力だ」と指摘。どういふ日本をめざすかについて、あらためて原点である草の根の対話が必要だと訴えました。

○参院選のテーマは「民主主義の回復」

山口二郎さん (法政大学教授、「市民連合」よびかけ人) は、総選挙で政権交代できなかった背景として、立憲民主党などが比例代表で負けたことが大きいと指摘。党独自の努力を求めつつ、参院選に向けて「1人区の野党候補者一本化は継続すべき」とし、その際のテーマは「民主主義の回復と憲法擁護だ」と述べました。参院選に向けた共闘・候補者の一本化を進める上では「地域レベルで下からの積み上げが重要」とし、連合や国民民主党に関する質問に対しては、組織をひとくくり一面的に見るのではなく、個々の状況に応じて共闘の可能性を追求することが大切と語りました。あわせて、若者との連携をめざす課題では「困難を抱えている人たちへの支援とエンパワメント (力をつけること) は年配者の役割」と呼びかけました。

○飼い慣らされたメディアでいいのか

日比野敏陽さん (元新聞労連委員長、新聞記者) は、安倍・菅政権の8年間で「メディアが飼い慣らされてしまった」と述べました。特に官邸記者クラブでは「政権を追及しない」「官邸と角を突き合せたくない」姿勢が目立ち、

質問制限などが行われ、仕込んだ質問にしか政権側が答えない慣例にメディア側が疑問を持たなくなっていることが問題だと指摘。その帰結が今回の衆院選にも現れたとし、メディアの責任に触れました。そうなった背景として「メディア側に新自由主義への親和性や、市民運動・労働運動へのある種の蔑視感、偽りの『中立主義』などがある」と述べ、今後、翼賛体制づくりにメディアが加担しないか、市民からの厳しい監視と批判が重要になると強調しました。



○市民にできることまだまだある

eriさん(DEPTカンパニー代表・環境アクティビスト)は、気候変動問題を中心に展開している活動を紹介。二酸化炭素削減目標の引き上げなどを政府に求めるストライキや、総選挙の取り組みとして「みんなの未来を選ぶためのチェックリスト」を立ち上げ、市民の質問に対して各党が答えた政策を比較する取り組み、市民街宣・投票の呼びかけについて語りました。活動を通じて、若者の中に政治に疑問を持っている層が一定いることを実感したと述べつつ、一方で「政治と自分たちの生活・命が関係しているという感覚

が薄く、諦めムードもある」ことを課題として挙げました。「市民の側から動いてできることはまだまだあると思う」と希望をつなぎながら、大人社会に対し「皆さんが若者たちを育てられなかったということです」と指摘し、年配者と若者が一緒にやっていける機運をつくることが大事と提起しました。

○要求を前面に参院選たたかう

小畑雅子さん(全労連議長)は、昨年の総選挙で政権交代をめざし、ていねいに議論を重ねながら野党統一候補を支援する取り組みに踏み出したことを報告しました。命を軽んじる政治の転換をはじめ、労働者要求の実現を前面に掲げた選挙闘争を追求。看護師や保育士をはじめ、「コロナ禍、私が経験したこと」など現場の声を政府に届ける取り組みを進める中で現実の政治を動かす実感を得たと語りました。参院選に向けても、①所属組織の違いを超え一致する要求で共闘を広げ、仲間を増やす②9条改憲ではなく、憲法を生かした政治の実現をめざす——と述べ、今年の春闘でも共同・共闘を広げる決意を述べました。

○野党は翼賛体制づくりに反対を

志位和夫さん(日本共産党委員長)は、参院選の闘いについて、敵基地攻撃能力の保有や新たな歴史修正主義など暴走する岸田政権に審判を下す必要があるとし、①東アジアを平和地域にする外交ビジョン②新自由主義の転換とやさしく強い経済③維新などによる翼賛体制づくりへの批判——が重要だと述べました。特に維新に対しては「補完勢力というより、右からの『けん引勢力』と言える」と提起。野党は共同して翼賛体制づくりに正面から対決することが大事だと強調しました。参院選では32ある一人区での共闘に力を尽くす決意を語り、「その際に大事なのは草の根からの運動の力であり、尽力をお願いしたい」と訴えました。質問に答える形で、改憲反対署名に取り組む意義や、国民民主党の評価、立憲民主党を含む野党共闘の展望についても見解を表明しました。

全国革新懇シンポジウムは youtube で視聴できます

URL <https://www.youtube.com/watch?v=XmpVW7hmmA>